

平成23年度 食事についてのアンケート調査結果

岐阜県健康福祉部保健医療課

1 調査目的

子どもの食に関する意識や現状を把握し、岐阜県食育推進基本計画(計画期間:平成19年度～23年度)の最終評価と第2次計画策定(平成24年度～28年度)の基礎資料及び今後の食育推進に活用する。

2 調査結果の概要

(1)共食状況

「家で食事を食べる時、家族そろって食べることが多い」子どもは、朝食73.7%、夕食91.4%

(2)共食と食事の楽しさ

「家族そろって食べる時が楽しい」子どもは94.9%(H18 89.1%、H21 96.4%)

(3)家で料理を作る状況

「家によく料理をつくる」子どもは17.9%、「たまに作る」68.0%、計85.9%(H18 82%、H21 87.1%)

(4)料理を作ることが楽しいと感じる状況

「料理を作ることが楽しい」子どもは90.7%(H18 79.1%、H21 90.7%)

(5)伝統料理を家で作って食べる状況

「伝統料理を家で作って食べる」子どもは68.5%(H18 67.5%、H21 69.6%)

3 調査方法

(1)調査地域 岐阜県

(2)調査対象 市町村または市町村食生活改善推進協議会が開催する講座に参加した県内小学生及び中学生

(3)実施期間 平成23年6月～8月

4 回答者の属性

学年	人数(人)	割合(%)	区分別	割合(%)
小学1年生	522	14.5	1,691	46.8
小学2年生	545	15.1		
小学3年生	624	17.3		
小学4年生	546	15.1	1,700	47.1
小学5年生	725	20.1		
小学6年生	429	11.9		
中学1年生	53	1.5	179	5.0
中学2年生	50	1.4		
中学3年生	76	2.1		
無回答	42	1.2	42	1.2
計	3,612	100.0	3,612	100.0

5 調査結果

(1) 家で食事を食べる時、家族そろって食べる事が多いですか、ひとりで食べる事が多いですか？

図1 朝食の共食状況

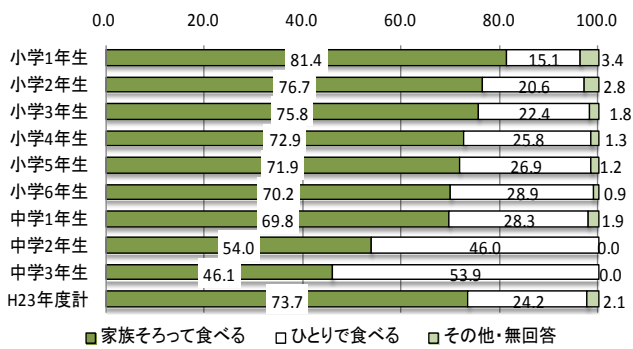


図2 夕食の共食状況

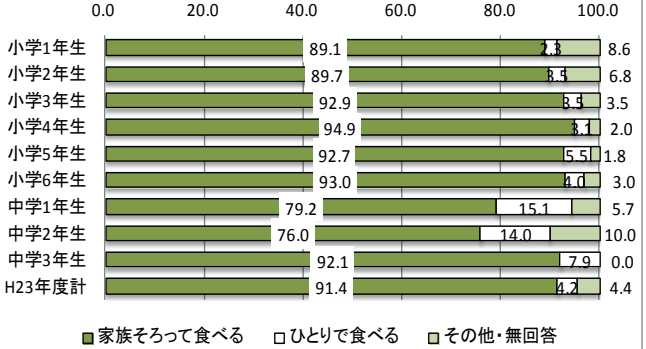
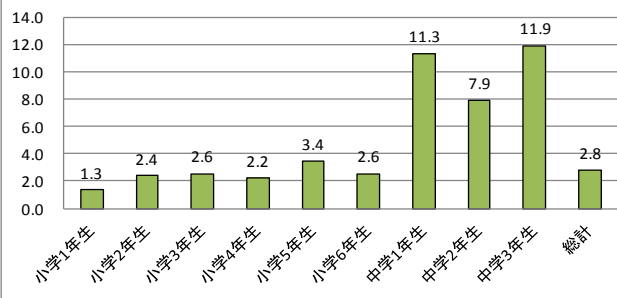


図3 朝食・夕食ともにひとりで食べる事が多い子どもの割合



「家族そろって朝食を食べる」割合は73.7%、夕食は91.4%でした。朝食の孤食については、年齢が高くなるにつれて割合が高くなっていました(図1, 2)。

また、朝食と夕食のどちらも孤食の割合は2.8%、中学生では約10人に1人となっていました(図3)。

(2) 食事はどういう時が楽しいですか？

図4 食事はどういう時が楽しいですか

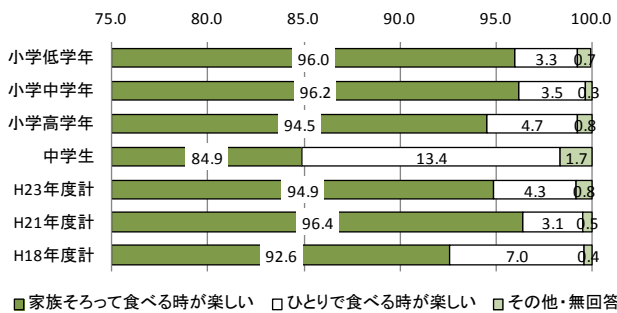
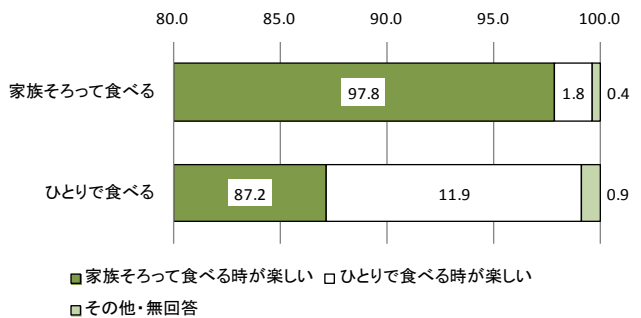


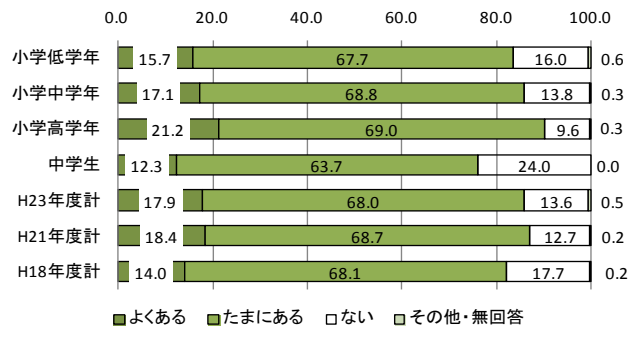
図5 共食と食事の楽しさ



「食事は、どういう時が楽しいですか」については、「家族そろって食べる時」94.9%、「ひとりで食べる時」4.3%でした。年齢が高くなるにつれ、「ひとりで食べる時が楽しい」割合が高くなっていました(図4)。また、「朝食を家族そろって食べる」子どもは、「ひとりで食べる」子どもに比して、「食事は家族そろって食べる時が楽しい」と回答する割合が高くなっていました(図5)

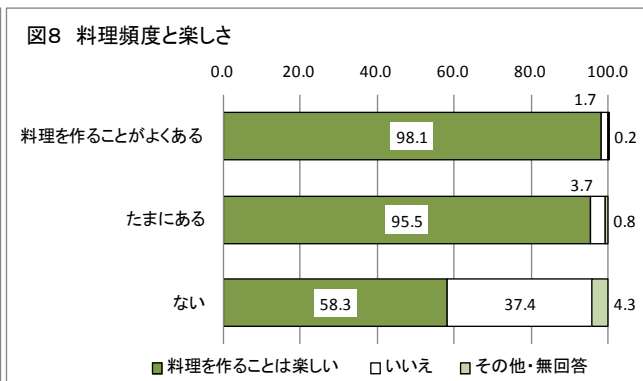
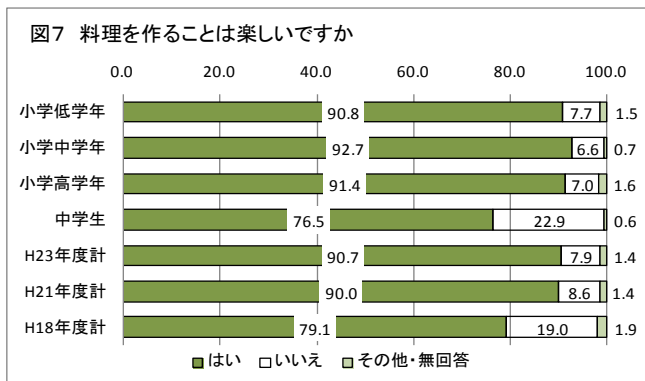
(3) 自分ひとりで、または家族の人と一緒に家で料理を作ることがありますか？

図6 家で料理を作ることがありますか



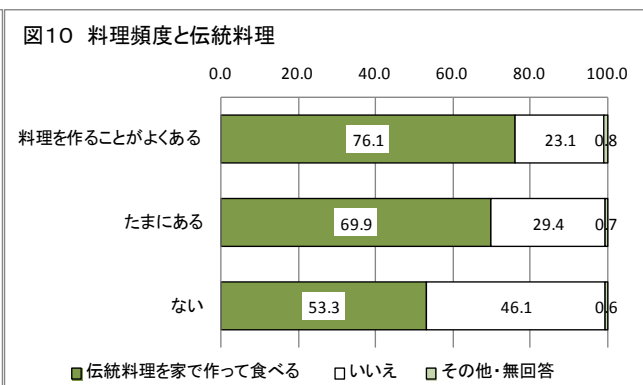
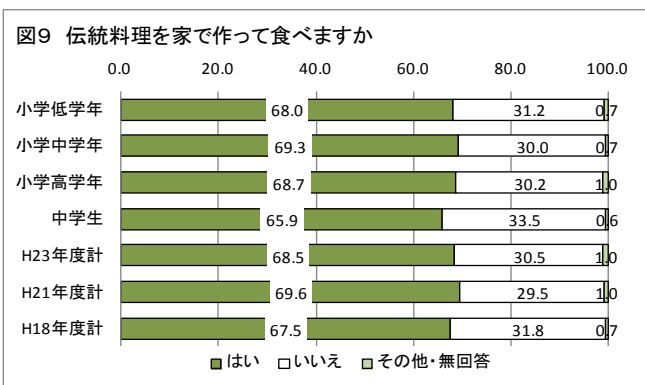
「自分ひとりで、または家族の人と一緒に家で料理を作ることがよくある」割合17.9%、「たまにある」68.0%と併せて85.9%が家で料理を作っていました。中学生では、「料理を作ることがない」割合が24.0%と高くなっていました(図6)。

(4) 料理を作ることは楽しいですか？



「料理を作るのが楽しい」子どもは90.7%,中学生では、76.5%と割合が低くなっていました(図7)。また、料理頻度と料理の楽しさをみると「料理を作ることがよくある」子どもは、「料理を作るのが楽しい」と回答する割合が高くなっていました(図8)。

(5) お祭りやお正月の時に、昔から地域に伝わっている料理を家で作って食べますか？



「お祭りやお正月に、昔から地域に伝わっている料理を家で作って食べる」子どもは65.9%。年齢による差は見られませんでした(図9)。家で料理を作る頻度が高い子どもは、伝統料理を家で作って食べる割合が高くなっていました(図10)。

6 まとめ

食事の共食状況をみると、朝食は73.7%,夕食は91.4%であり、朝・夕の食事を併せて1日1度は家族そろって食卓を囲む時間が確保できている状況でした。しかし、中学生の約10%は、朝・夕ともに孤食の状況でした。クラブ活動や塾などにより家族と一緒に過ごす時間が取れない中学生に対して、家庭の場以外での食育の場の確保が必要となっています。

子どもの共食は、食事を他者とともに行う楽しさを培い、料理体験は、調理を行う楽しさ、食文化の継承などに関与しています。今後も、家族との共食の推進、調理体験の機会の提供、伝承料理を子ども・保護者へ普及していくことを続けていくことが大切です。